

世界の金シヤ子横丁 (仮称)

基本構想

名古屋市



はじめに

名古屋城に一卷の絵巻が展示されている。

それは享保年間（1716～36）から元文年間（1736～41）の名古屋城下の風景を描いたもので、「享元絵巻」と呼ばれている。

様々な装束をまとった老若男女が本町通を往来する傍らで、茶店の軒先で腰を休める人、三味線の調べに合わせて舞い踊る人、あるいは宿屋で横になってくつろぐ人など、当時の風俗がいきいきと描かれている。

当時の名古屋城下は、折りしも徳川幕府が進めた質素儉約に対し、藩主の宗春が独自に芝居小屋や遊戯場などを設置、祭りや技芸を奨励したこともあり、「名古屋の繁華に京（興）が覚めた」と謡われるほどの華やかさを誇ったという。

享元絵巻の時代からおおよそ 300 年を経た今日、名古屋市は、人口 220 万人を擁する大都市に成長し、自動車、鉄道車両、航空機といった輸送機械や工作機械、電子機器など当地域のものづくりの拠点として大きな存在感を有している。

こうした名古屋のものづくりは、徳川家康が清須から那古野の地に町ぐるみの移設を行ったいわゆる「清須越」と、天下普請である名古屋城築城のために職人たちがこの地に集められたことに端を発している。

各地から集結した匠たちは、木曾の上質な木材や木曾三川の豊富な水、肥沃な濃尾平野がもたらす農産物などの資源を活用して、木製品、からくり、繊維製品、陶磁器、金属製品、加工食品など多様な産業を生みだし、今日のものづくりの礎を築いた。

また南部には、名古屋城築城以前から熱田神宮を核とする門前町が栄え、東海道の要衝である有松、鳴海宿とともに人々の往来や物流において重要な役割を担ってきた。

名古屋には、歴史の中で培われた伝統芸能や祭り、食文化などが今も脈々と息づいており、そうした尾張の歴史文化や独自の風土こそが都市魅力の源泉であるとともに、将来に継承すべき貴重な財産であると言える。

一方で、歴史的背景を伝える街並みの多くは、近代化の荒波の中で現代建築に置き換えられ、さらには太平洋戦争の戦火により貴重な文化財が失われたことで、来訪者はもとより市民の目に触れる機会さえも希薄なものとなっている。

そうした中で、これらの歴史文化を市民が再認識する場を設けることは名古屋市民としての誇りの醸成にも大きく寄与するものと考えられる。

また、尾張藩を様々な面で支えてきた木曾や三河、美濃などの周辺地域とのつながりも、名古屋の武家文化や庶民文化を語る上で欠くことのできない要素である。

世界規模での人的・経済的交流が一層進展する中、観光はもとより産業・経済など様々な分野において当地域の存在感を高める上でも、地域の個性を可視化するとともに、連携を図ることで相互間の魅力を向上させることが極めて重要である。この構想の推進は、そうした多面的・広域的な連携による歴史文化観光の拠点として、市内はもとより当地域の活性化に一石を投じることも期待される。

以上のような視座から、来訪者や市民が尾張の歴史文化の旅の基点として、また名古屋の都市魅力を再発見する契機として「世界の金シャチ横丁（仮称）」基本構想を策定するものである。

平成 25 年 3 月

名古屋市

目 次

第一章 世界の金シャチ横丁(仮称)構想の考え方.....	1
1) 背景と目的.....	1
2) 名古屋の歩み.....	2
3) 名古屋城とその周辺地区の位置づけ.....	4
4) 世界の金シャチ横丁(仮称)構想の考え方.....	6
第二章 空間づくりのイメージ.....	7
1) 事業展開の全体像.....	7
2) 個別の展開イメージ.....	8
第三章 連携・協働による事業推進.....	18
1) 計画づくりへの市民参加.....	18
2) 事業への市民・企業の参加.....	18
第四章 事業の進め方.....	20
1) 官民の適切な役割分担.....	20
2) 的確なニーズ把握とスピード感のある整備.....	21
3) 推進していく過程における留意点.....	22
第五章 構想の実現に向けて.....	23
1) スケジュール.....	23
2) 事業費等について.....	23
参考資料.....	24
1) 世界の金シャチ横丁（仮称）有識者懇談会.....	24
2) 市民への情報発信.....	26
3) 市民からの意見募集.....	27

第一章 世界の金シャチ横丁（仮称）構想の考え方

1) 背景と目的

背景（現状）

●本丸御殿の復元で注目

多くの寄付が集った本丸御殿の一部公開で脚光を浴びる名古屋城

●全国的な歴史ブーム、お城ブーム

歴史ブームなどの後押しにより、名古屋城の入城者数は堅調に推移

●リニアを契機とした新たなまちづくりへの期待の高まり

リニア開業を契機に訪れる多くのお客さまを取り込むことによる観光戦略の一つ

●入城者のもてなしの場の不足

団体客など入城者のニーズに応える場が十分ではなく、滞在時間も短い



都市魅力の一層の向上に向け、本丸御殿の復元を契機に新たな交流やにぎわいの拠点づくりを行うことで相乗効果を発揮していく

目的

名古屋城とその周辺地区を取り巻く現状を考慮し、世界の金シャチ横丁（仮称）基本構想が目指す目的を以下のように設定しました。

■本物志向で自慢のできる、交流やにぎわいの拠点づくり

■何度も訪れたくなる、新鮮さのあるおもてなしの拠点づくり

■尾張名古屋の歴史や文化の魅力を集めた観光の基点づくり

2) 名古屋の歩み

近世（安土桃山～江戸） “名古屋開府と武家文化の開花”

戦国の動乱期、名古屋を中心とした尾張の地では、信長、秀吉をはじめとする多数の武将が輩出され、城や砦が築られました。慶長 15 年（1610 年）からは、名古屋台地の北端に徳川家康により名古屋城が築かれるとともに、清須から名古屋へ町ぐるみの大移動（清須越）も行われ、碁盤割の城下が形成されました。城と城下の形成に伴い、経済が大きく発展し、様々な商品流通による都市の成長が見られました。

武士が勢力を伸ばしたこの時代には近世武家文化が花開き、大名達の住居である御殿を中心とした建築文化が形成されました。世の中が安定した江戸中期には、城下が活気に満ち、にぎわいにあふれ、祭りや技芸、食文化が発達し、現在の名古屋文化を形成する礎となりました。

近代（明治～昭和初期） “産業の発展と近代建築の幕開け”

明治・大正期は、名古屋が産業都市へと変貌を遂げた時代です。鉄道や港湾施設等の産業基盤が整備されるとともに、耕地整理や区画整理により整然とした街並みが形成されました。こうした中、中級武士の屋敷町は、新たな産業の担い手である政財界の住宅地となり、今も白壁、主税町などには、当時の面影を残す和館や洋館が融合した家々の集まる街並みが残っています。

また、市内には、昭和初期において建設された名古屋市役所本庁舎、市政資料館、名古屋市公会堂、中川運河松重閘門、三菱東京 UFJ 銀行名古屋ビル旧館等の建築物等が現存し、産業とともに都市の近代化が進んだことが分かります。



現代（昭和以降） “戦災復興と大規模プロジェクトの進展”

市内は、第二次世界大戦により市域の約4分の1を消失し、名古屋城天守閣や本丸御殿などの多数の文化財を失いました。戦後は、碁盤割の街区形成を踏襲する形で復興が行われ、100m道路や平和公園に代表される都市計画をはじめ、名古屋テレビ塔の建設（昭和29年）、市営地下鉄の開業（昭和32年）、名古屋城天守閣の再建（昭和34年）、東海道新幹線の開通（昭和39年）等の大規模プロジェクトが進み、現在の市の礎が作られました。

さらに近年、名古屋駅周辺では、JRセントラルタワーズ、ミッドランドスクエアなどの高層建築物が建設され、名古屋の玄関口としての魅力を高めています。

■名古屋駅前の高層ビル群



名古屋城と名古屋の歴史

年号	名古屋城での出来事	名古屋での主な出来事
慶長一五年 (一六〇〇)	名古屋城築城に着手 (二年後に天守閣竣工)	「清須越」で、名古屋城下町の基礎ができる
慶長一八年 (一六一三)	名古屋城本丸御殿が完成	
慶長二〇年 (一六一五)	初代尾張藩主徳川義直、駿河より名古屋城に移る	
元和一年 (一六一六)	本丸御殿の増築工事竣工	
寛永二年 (一六三三)		
万治三年 (一六六〇)		万治の大火。これを契機に広小路を整備
享保一五年 (一七三〇)	徳川宗春、第七代藩主となる	
元治元年 (一八六四)	第十四代藩主徳川慶勝、第一次征長総督として大坂城に出陣	
慶応三年 (一八六七)	王政復古、新政府樹立	廃藩置県により名古屋県となる
明治四年 (一八七一)		市制施行、市内で電灯初点灯
明治二年 (一八八九)	名古屋城が名古屋離宮となる	
明治二六年 (一九一三)	宮内省から名古屋市に名古屋城が下賜される	東山動物園・植物園開園
昭和五年 (一九三〇)		
昭和一二 (一九三七)	戦災により名古屋城天守閣、本丸御殿焼失	
昭和二〇年 (一九四五)	名古屋城天守閣の再建工事が完了	名古屋でテレビ放送開始、テレビ塔竣工
昭和一九年 (一九五四)	金鯱を天守閣から降ろす (名古屋城博)	地下街誕生、地下鉄開通
昭和五九年 (一九八四)	金鯱を天守閣から降ろす (名古屋城博)	
平成元年 (一九八八)		世界デザイン博開催
平成一七年 (二〇〇五)	金鯱を天守閣から降ろす (新世紀・名古屋城博)	愛・地球博開催

3) 名古屋城とその周辺地区の位置づけ

名古屋城周辺地区には、名古屋の成り立ちに深く関わる様々な要素が点在しています。これらを名古屋城との関わりを考慮して大別すると、名古屋城の位置づけは以下のように整理することができます。

【名古屋城とその周辺地区の位置づけ】

「歴史の中で培われた伝統文化」と「新たな都市魅力」をつなぐ結節点

● 伝統産業の集積地

- 江戸時代より多くの職人達が住む地域
- 京都や江戸から、扇子・友禅などが伝播
- 明治以降、産業技術発展の原点



写真提供：NPO法人ドゥチュウブ

● 旧来の繁栄軸＋新しの繁栄軸

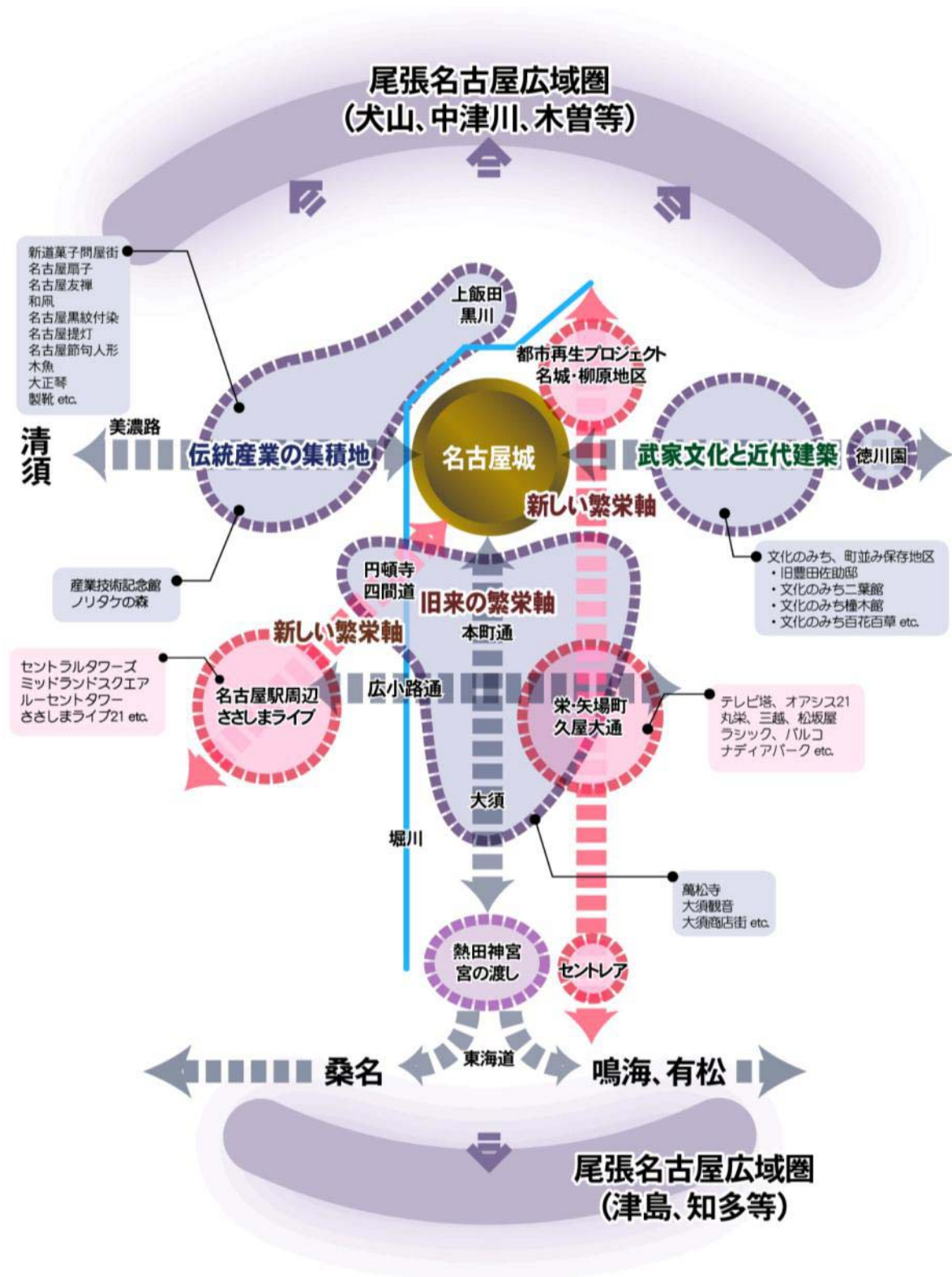
- 東海道と名古屋城を結ぶ本町通
- 江戸時代から現代まで栄える広小路通
- 栄の繁華街、名駅周辺の再開発



● 武家文化と近代建築

- 尾張藩家臣の武家屋敷
- 尾張徳川家の別邸「徳川園」
- 近代建築が建ち並ぶ「文化のみち」、町並み保存地区





4) 世界の金シャチ横丁(仮称)構想の考え方

この構想を推進するにあたっての考え方は、以下のとおりです。

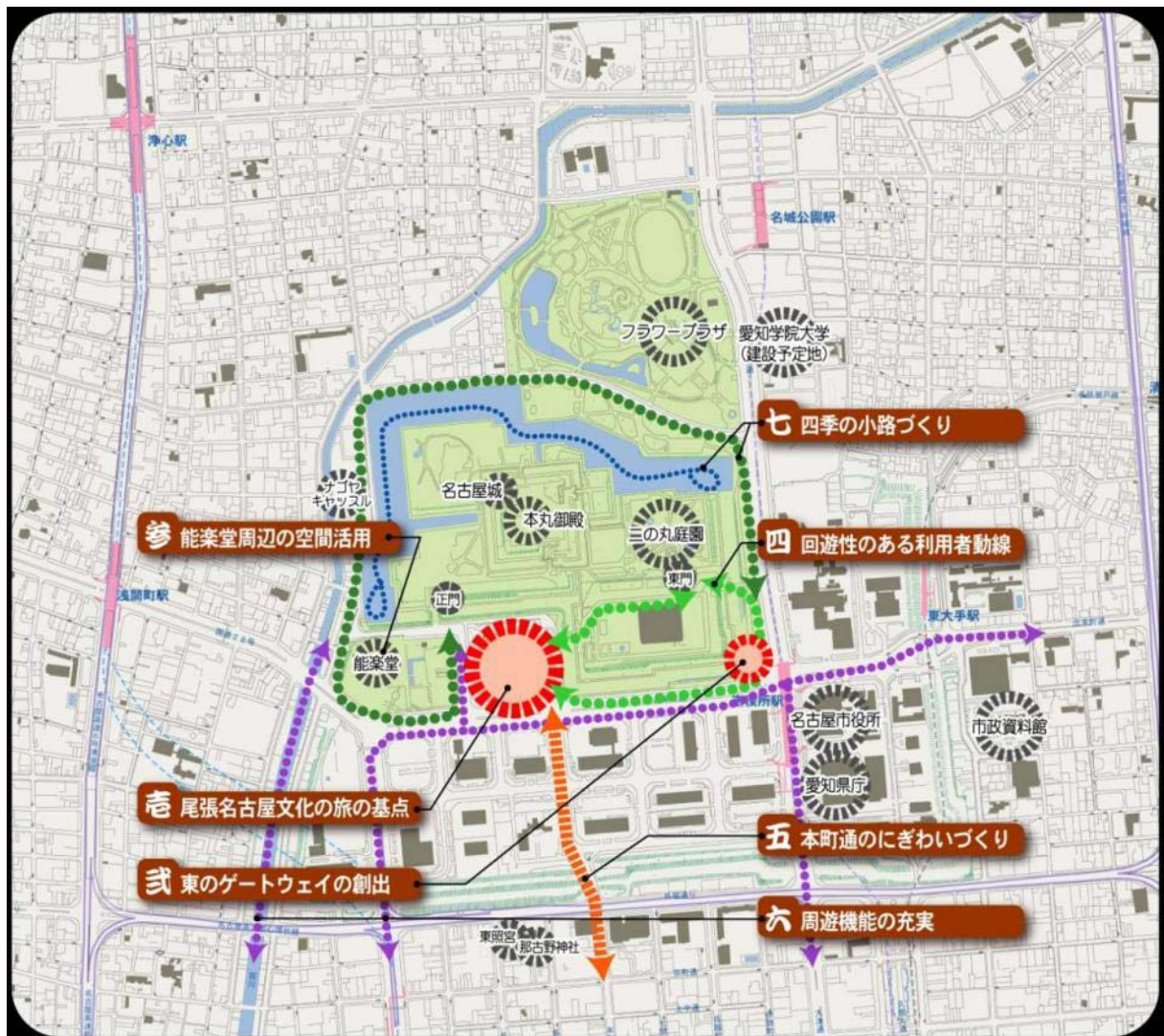


第二章 空間づくりのイメージ

1) 事業展開の全体像

世界の金シャチ横丁（仮称）では、開府以降 400 年間に培ってきた名古屋の文化（歴史、生活、産業技術）と、それを支えてきた人のつながりや時代のつながりをじっくり「見て」、「知って」、「体感・体験」できる空間づくりを目指します。

また名古屋の町の成り立ちや周辺とのつながりを学び、それをきっかけに周辺にも足を延ばしてもらえる“尾張名古屋文化の旅の基点”を創出していくことを目指します。



2) 個別の展開イメージ

壱

尾張名古屋文化の旅の基点

大屋根をもつ和風建築に入ると、目の前には舞台を備えた芝居小屋が広がります。そこは観光客が食事をしながら芝居が楽しめる、くつろぎの場となっています。奥へ進むと、金鯱や山車、鎧兜などを見て、触れて、名古屋の本物の歴史が感じられる空間が待っています。さらに奥へ進み、建物から外へ出ると、往時の城下を模した飲食、物販店が並ぶ賑やかな横丁へとつながります。

名古屋で育まれてきた「食文化」や「生活文化」を最大限に表現し、堪能できる“尾張名古屋文化の旅の基点”となることを目指します。



■芝居小屋で多目的空間を演出

名古屋の文化として脈々と受け継がれてきた芸能や催しを鑑賞したり、食事をとりながら憩い、くつろげる多目的空間づくりを進めます。



■本物の歴史に出会う空間

名古屋城の金鯱や収蔵品、山車などを展示・活用することで、名古屋の本物の歴史を肌で感じてもらうことのできる展示空間づくりを進めます。

またここでは、尾張藩主として名古屋城に居を構えた徳川義直や宗春など藩主たちの生活ぶりを学ぶ空間づくりも展開します。



■名古屋の食文化・生活文化を 堪能できる横丁

江戸時代から続く名古屋ならではの「食」を味わい、ものづくり産業の発祥ともなった伝統工芸にふれることのできる名古屋情緒溢れる空間づくりのほか、尾張名古屋圏の情報発信や交流も図られる展開も目指します。

また区域内の史跡を生かし、歴史的深みのある空間づくりを進めます。

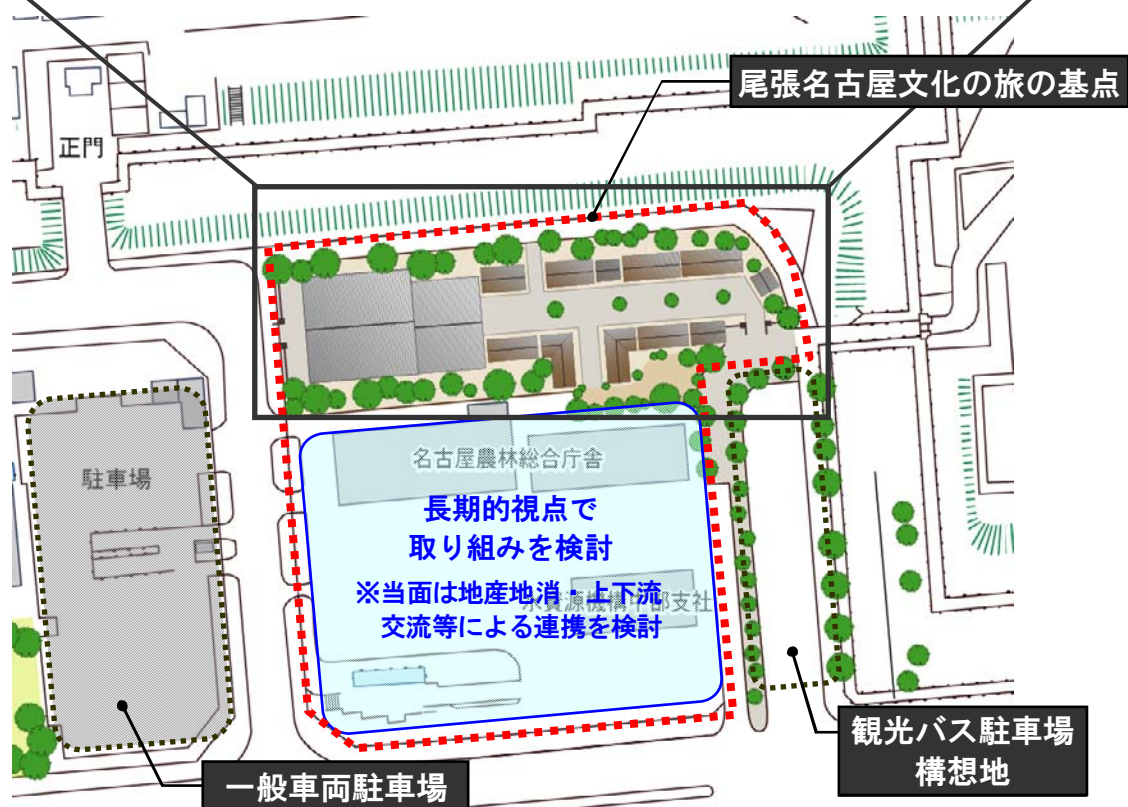
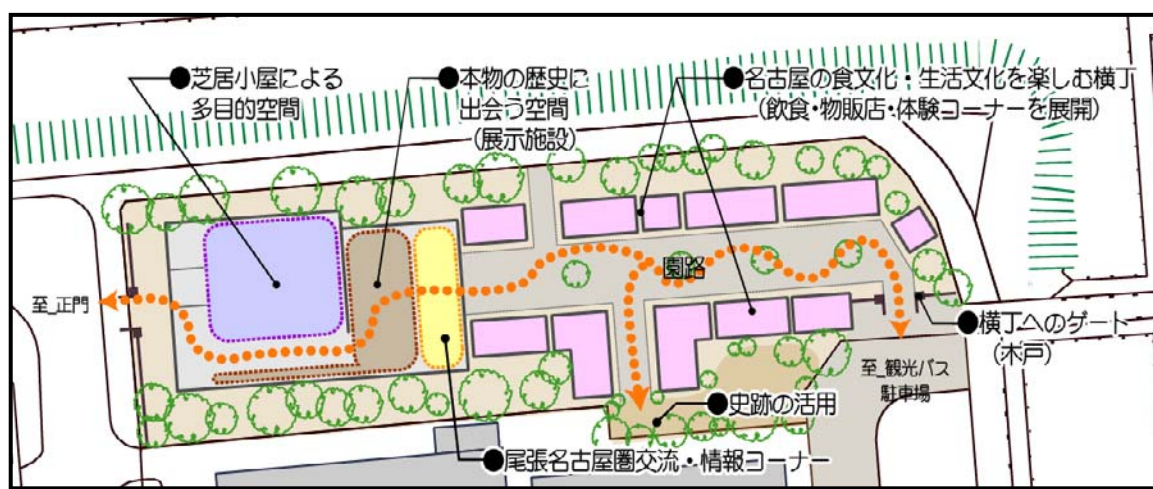


〔正門前駐車場の東側用地（現状）〕



〔二之丸大手二之門前の道路（現状）〕

■尾張名古屋の旅の基点（施設展開イメージ）



貳

東のゲートウェイの創出

地下鉄の改札を出たところから名古屋城登城への第一歩が始まります。来城者が地上に出ると、そこには異空間が広がります。目の前には木戸番のいる大木戸が立ち、木戸をくぐると下町風の屋台から聞こえる威勢の良い掛け声や美味しそうな匂いが、名古屋城への入城を誘ってくれます。

東のゲートウェイは、市民の多くが入城する玄関口として、地下鉄改札から東門までを歴史の道として演出します。



■地下鉄市役所駅の出入口

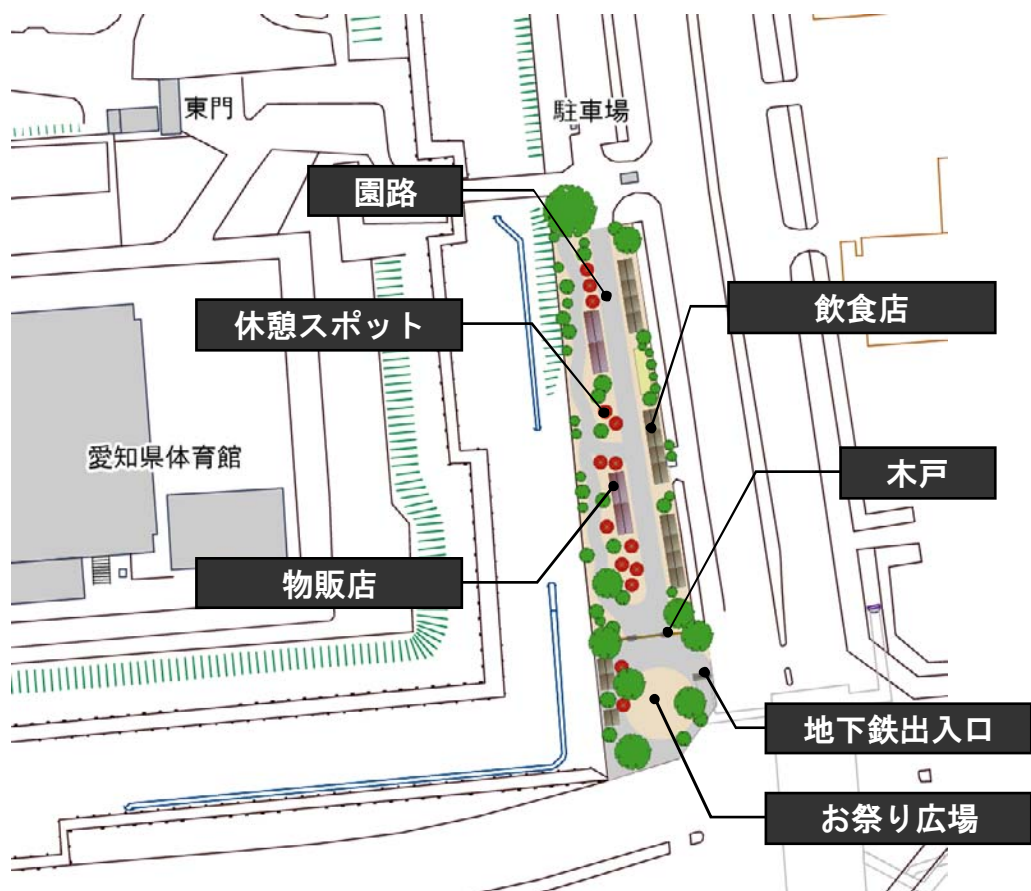
東のゲートとなる地下鉄出口周辺では、木戸の設置やお祭り広場での盛り上げイベントなどにより、入城への期待感を盛り上げる空間づくりを進めます。



■東駐車場での横丁展開

木戸をくぐり名古屋城入城までの通りでは、現在の駐車場である空間を活用し、屋台や土産物屋が建ち並び、にぎわいのある下町の風情が感じられる横丁づくりを進めます。

■東のゲートウェイの創出（施設展開イメージ）



〔地下鉄出入口付近（現状）〕



〔東駐車場（現状）〕

参

能楽堂周辺の空間活用

高木の緑豊かな空間の中にある能楽堂周辺は、都会の喧騒を忘れさせる市民や観光客などの憩いの場として、また名古屋城の西のゲートとして、歴史を背に感じながら誰もが気軽に憩い、休息できる空間づくりを目指します。



■能楽堂の南広場

西のゲートとして、既設の加藤清正像、篠島から移設した矢穴石など名古屋城ゆかりの歴史要素を配し、天守閣と能楽堂を背景にした歴史を感じつつ、市民や観光客が憩う空間づくりを進めます。

そこでは四季に応じた軽飲食も楽しむことができます。



〔南広場の加藤清正像（現状）〕



〔能楽堂前の噴水（現状）〕

四 回遊性のある利用者動線

名古屋城の正門から東門までの間において、「駕籠」や「人力車」など昔ながらの風情のある乗り物を提供し、歴史的風情を壊すことなく、気軽に回遊でき散策を楽しむよう工夫します。また、電動カートなどの補助移動手段の検討も進めます。



〔駕籠（イメージ）〕



〔人力車（イメージ）〕

五 本町通のにぎわいづくり

名古屋城から南に延びるメインストリートとして江戸時代より栄えた本町通においては、その時代に名古屋三大祭と呼ばれた東照宮祭などや現在行われている名古屋まつり、春姫道中などと連携を図りながら、山車祭りの復活などによる本町通りのにぎわいの再現に向けての雰囲気づくりを行います。



〔春姫道中〕



〔東照宮祭の名残を残す山車〕

六

周遊機能の充実

名古屋の玄関口である名古屋駅や栄から名古屋城をはじめとする市内の観光スポットの周遊に有効な交通手段として、観光ルートバス「メーグル」があります。段差の少ない超低床バスを導入した人にやさしい交通手段であり、名古屋駅などの拠点駅や繁華街などで広報を積極的に行い、来城者への周知を図ります。

また名古屋城を基点とした周遊観光を推進するために、コミュニティサイクルなどの手軽に利用できる交通手段や、堀川を利用した名古屋城への水上アクセスなど、新たな交通手段の整備についても検討するほか、四間道や円頓寺などを回遊し名古屋駅に至る散策道の充実に向けても取り組んでいきます。



[なごや観光ルートバス「メーグル」]



[拠点駅バス停前での広告]



[四間道]



[水上アクセス（ナゴヤ堀川歴史観光クルーズ（2010年運行））]

七 四季の小径づくり

堀を通して天守閣や西北隅櫓などを眺められる名古屋城の外周は、季節を通じて美しい姿を魅せる自然環境を生かして、散策やジョギングが楽しめる四季の小径づくりを進めます。

また、堀を活用しながら、日常では体験できない名古屋城やその周囲の自然を觀賞できる仕掛けづくりを進めます。



■名古屋城東側・北側歩道

藤棚を眺め、四季の移り変わりを楽しみながら散策ができる小径づくりや、名城公園と連携したランナーサポート施設を設けジョギングも楽しめる環境づくりを進めます。

また、堀に舟を浮かべるなど、日常的には行き着けない水面から名古屋城や桜を愛でることができる観光舟運の導入も検討します。



■名古屋城西側道路

名古屋城西側の道路では、市民や観光客にお城を眺めながら快適に歩いて楽しんでいただくため、歩道の緑化や改良を進めます。

空間づくりのイメージ全体図



第三章 連携・協働による事業推進

1) 計画づくりへの市民参加

■ネーミングの公募

世界の金シャチ横丁（仮称）のネーミングを広く市民などから公募するとともに、その経緯を広く情報発信し、市民の愛着の醸成を進めていきます。

■計画づくりからの参加

計画づくりにあたっては、パブリックコメントや市民参加型のシンポジウムなどを通して市民の声を傾聴し、適切に事業展開に反映させていきます。

こうした取り組みを通じ、市民の事業への理解と関心を深め、より一層の魅力向上に努めます。

2) 事業への市民・企業の参加

■歴史文化に根ざした活動の場の提供

名古屋では、長い歴史の中で培われてきた歴史文化を保存・継承するべく、市民活動グループや個々の市民による様々な活動が広く行われています。

世界の金シャチ横丁（仮称）では、その発表・展示の場を提供し、尾張名古屋の歴史文化にふれることのできる拠点、歴史文化の継承の拠点として、さらなる市民等による活動を促進していきます。

市民活動の発表・展示にあたっては、適宜専門家によるコーディネートを図るなど、その成果をより効果的に演出するための支援を行います。

また大学等と連携を図り、インターンシッププログラム活動の場に向けても検討していきます。



【こども歌舞伎】

■観光や人の繋がりを支える交流の場の提供

美濃・三河・信濃には尾張藩が治めた地域もあり、江戸時代より名古屋との深い関わりの中で文化が形成されてきました。その文化は今もなお各地域で継承され、伝統芸能や魅力ある特産品といった形で残っています。

世界の金シャチ横丁（仮称）では、名古屋との関わりのある地域の伝統芸能や特産品などに関する情報の発信、定期的な地域物産展の開催など、地域と地域、人と人との交流の場となるような取り組みを進めていきます。

また、名古屋城は多くの外国人が訪れる観光地であり、彼らのニーズに対応できるコンシェルジュ機能の充実も目指していきます。

■季節やイベントにあわせた多様な出店形態の工夫

世界の金シャチ横丁（仮称）では、常設の店舗以外に観光・行楽シーズンや各種イベント開催時にあわせて、事業者や市民グループなどが期間限定で出店できるような仕組みづくりを行います。

期間限定の出店は、常設店舗よりもリスクを軽減でき気軽に出店できるようになるほか、来城者の方々に新鮮味溢れるサービスを常に提供できるといった利点もあります。

■多目的空間の創出

施設や空間整備にあたっては、特定の目的に特化した恒久的な施設整備を必要最小限に留め、時代のニーズに応じた多様な利用ができる構造とします。

これにより、施設整備費や恒常的な維持管理経費の縮減を図るとともに、長年にわたる施設の有効活用を図っていきます。

第四章 事業の進め方

この構想は、民間事業者の活力を生かしつつ、官民の適切な役割分担のもと、スピード感を持って事業を進めていきます。

1) 官民の適切な役割分担

■民間を事業主体にした展開

①経験や知見、発想、活力などを積極的に活用

来訪者のニーズに迅速に対応し、世界の金シャチ横丁（仮称）の魅力や経営を安定的に維持していくため、構想の考え方や空間づくりのイメージを明示しながら民間事業者等と協働し、企画・設計・建設、資金調達、運営・管理を行うなど、民間が持つ経験や知識、発想力、資金力などを積極的に活用していきます。

②整備・管理運営の効率化によるコスト縮減

民間事業者による整備から管理運営までの一貫した提案をもとに、公益性の高い施設も含めた施設全体の一体的運営を目指すことでコストの縮減を図り、持続性や良好な経営を確保します。

■行政による徹底したサポート

①民間活動を促進するための規制緩和やコーディネート

世界の金シャチ横丁（仮称）での活動を希望する民間事業者の創意工夫による取り組みを実現するため、名古屋城及び周辺の空間や施設利用に関する規制緩和を検討します。さらに催し物やイベントの水準を高めるため、各界の専門家等によるコーディネートを図るなど、民間事業者の取り組みを支援します。

②迅速な意思決定を可能にする権限の集約化

魅力的なイベントづくりには、名古屋域内外のそれぞれの施設を相互利用していくことが重要であり、効率的な許認可手続の実現へ向け、各機関に分散する施設利用の権限の集約化と窓口の一本化による迅速な意思決定ができるよう検討します。

2) 的確なニーズ把握とスピード感のある整備

■社会実験の実施

○データの収集と計画への反映

○本格実施に向けた機運醸成

世界の金シャチ横丁（仮称）に対する市民や外国人も含む観光客のニーズを的確に把握し、計画へのフィードバックを図るため、社会実験を実施していきます。

こうした実験を通じ、この構想を広く市民や観光客に周知することで、本格実施に向けた機運醸成を図ります。

■スピード感のある段階的な整備

○長期的な視点に立ちつつ実現可能なところから整備に着手

○時代の変化に対し柔軟かつスピーディな対応

世界の金シャチ横丁（仮称）の実現には多くの費用が見込まれるほか、計画地の一部には、公的施設も立地していることから、全体の完成には多くの年月を要するものとも考えられます。

このため、長期的な視野の中で具体的な計画を立案しつつも、実現可能なところから民間事業者の資金力を活かしつつ段階的に事業を推進します。

また、時代とともに変化する市民や観光客のニーズに対しては、整備を進める中で構想や計画を定期的に見直すなど、柔軟かつスピーディに対応します。

3) 推進していく過程における留意点

■大規模イベントや博覧会との連携による効果的な情報発信

世界の金シャチ横丁（仮称）の実現に向けては、様々な大規模イベントや博覧会の誘致を進めつつ、これらの開催と連携しながら全国に向け効果的な情報発信をしていきます。

こうしたイベントの開催と連携することで、大きな相乗効果を高めていくことが期待できます。



■常に変化し続けるシステムを構築

長きに渡って話題性や賑わいを保っていくためには、常に魅力ある新鮮な来城者サービスを展開していく必要があります。

そのために、店舗や展示内容等について固定化するのではなく、柔軟に変化させるシステムの構築を検討していきます。

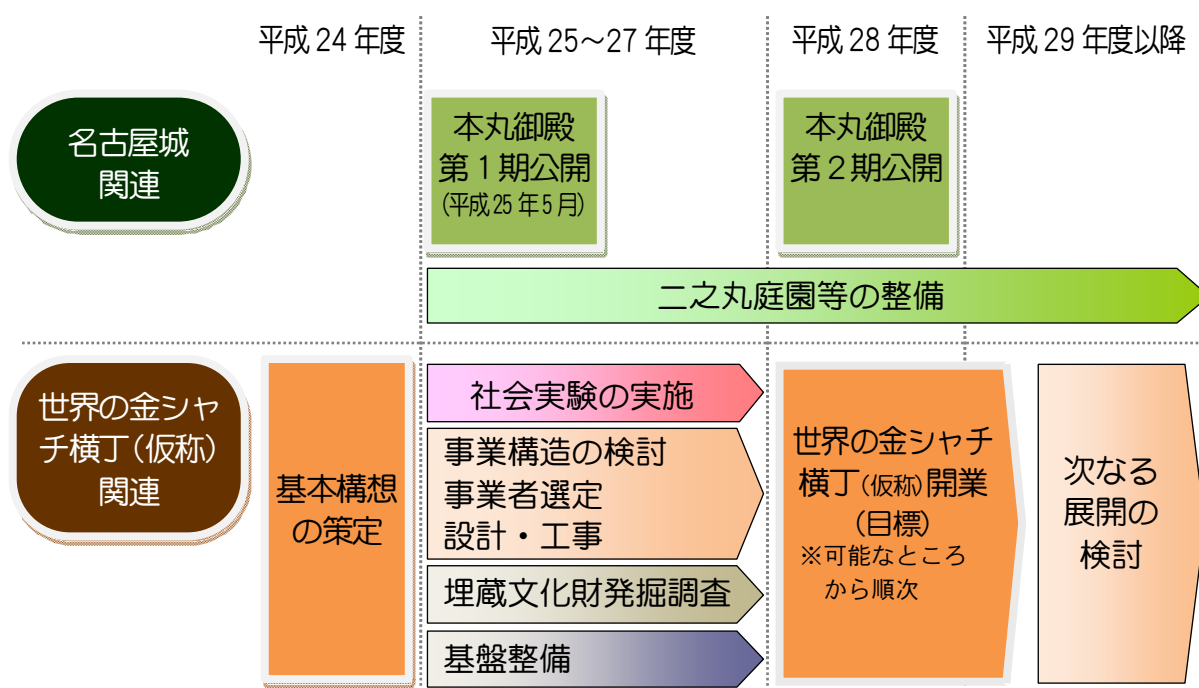
第五章 構想の実現に向けて

1) スケジュール

構想の実現に向けては、以下に示すステップを踏みながら詳細な検討を進めていきます。

なお当面は、城内や駐車場等を活用して社会実験を実施し、世界の金シャチ横丁（仮称）の実現に向けたニーズ把握と機運醸成を図ります。

【当面のスケジュール】



2) 事業費等について

“尾張名古屋文化の旅の基点”など主要事業の展開にあたっては、官民の負担内容を明確にした上で、PFI方式等の導入を検討するなど、民間事業者の活力を最大限に生かすとともに事業費の縮減にも努めます。

今後事業構造なども含めて詳細な検討を進めてまいります。

なお、事業の経済効果についても十分に検討してまいります。

参考資料

1) 世界の金シャチ横丁（仮称）有識者懇談会

幅広い分野の有識者に集まっていただき、この構想の策定に向けた検討を行いました。

審議経過

■第1回懇談会

- 1 開催日時；平成 24 年 7 月 23 日(月) 17:00～19:00
- 2 開催場所；名古屋市役所 正庁
- 3 審議内容；座長選出
報告事項 ①名古屋城の現状とあゆみ
②世界の金シャチ横丁（仮称）構想のこれまでの経緯
議題 ①名古屋城及びその周辺のあり方
②構想を進めるにあたっての課題・機能
- 4 出席者数；懇談会委員 座長始め 14 名（代理出席 1 名）
- 5 傍聴者数；35 名

■第2回懇談会

- 1 開催日時；平成 24 年 9 月 10 日(月) 17:00～19:00
- 2 開催場所；名古屋市役所 正庁
- 3 審議内容；議題 ①構想の基本的な考え方について
②課題等の整理及び今後の方向性について
- 4 出席者数；懇談会委員 座長始め 14 名
- 5 傍聴者数；16 名

■第3回懇談会

- 1 開催日時；平成 24 年 11 月 16 日(金) 17:00～19:00
- 2 開催場所；名古屋市役所 正庁
- 3 審議内容；議題 ①素案策定に向けて（有識者懇談会とりまとめ(案)、今後の進め方について）
②具体的な「目玉展示」の提案
- 4 出席者数；懇談会委員 座長始め 14 名
- 5 傍聴者数；18 名

■第4回懇談会

- 1 開催日時；平成 25 年 3 月 18 日(月) 17:00～19:00
- 2 開催場所；名古屋市役所 正庁
- 3 審議内容；議題 ①基本構想（案）について
②今後の展開について
- 4 出席者数；懇談会委員 座長始め 14 名
- 5 傍聴者数；11 名

委員名簿

■学識経験者等

飯田喜四郎	名古屋大学 名誉教授
井澤 知旦	名古屋学院大学 経済学部教授
尾久 充弘	中日新聞 社会事業部長
◎奥野 信宏	中京大学 理事・総合政策学部教授
佐藤 久美	金城学院大学 国際情報学部教授
野田 聡	ナゴヤ名所盛り上げ隊 代表
牧村 真史	(株)集客創造研究所 所長
夢童由里子	造形作家（名古屋城文化フォーラム代表）
安田 文吉	南山大学 人文学部教授
横山 陽二	名古屋外国語大学 現代国際学部准教授

■団体・行政等

細谷 孝利	名古屋商工会議所 専務理事
伊藤 範久	中部経済連合会 専務理事
金森 泰博	名古屋観光コンベンションビューロー 事務局長
佐藤 正幸	名古屋城総合事務所 所長

◎は、座長



2) 市民への情報発信

世界の金シャチ横丁（仮称）基本構想の策定に向け、その取り組み内容と考え方を市民へ情報発信するため『名古屋城プレミアムトークステージ』及び『世界の横丁パネル展』を開催しました。

名古屋城プレミアムトークステージ

- 1 日 時；平成 25 年 1 月 26 日(土) 13:30～15:20
(基本構想(素案)のパブリックコメントによる意見募集期間中)
- 2 場 所；名古屋市公館 1 階レセプションホール
- 3 テーマ；名古屋城の魅力とこれからの期待について
- 4 プログラム ■第1部 名古屋城の整備状況について
・本丸御殿復元工事の進捗状況
・世界の金シャチ横丁（仮称）の検討状況
■第2部 トークセッション
[テーマ] 名古屋城の魅力とこれからの期待について
[出演者] 竹下 景子さん（俳優）
佐藤 正幸 （名古屋城総合事務所長）
[コーディネーター]
飯尾 歩さん（中日新聞論説委員）
- 5 参加者数；200名



世界の横丁パネル展

日本には伊勢のおかげ横丁や博多の中洲屋台、世界にはパリのシャンゼリゼ通りなど人々を魅了する賑わいの場所が多くあります。世界の横丁パネル展では、国内外21都市の横丁を紹介するとともに、そのあり方を学びました。

- 1 期 間；平成 24 年 11 月 26 日(月)～12 月 24 日(月)
- 2 場 所；名古屋城天守閣地階
- 3 内 容；国内 10 都市、海外 11 都市の横丁を紹介



3) 市民からの意見募集

「世界の金シャチ横丁（仮称）基本構想」（素案）について、市民等から意見を募集しました。

意見募集概要

- 1 募集期間；平成 24 年 12 月 20 日（木）～平成 25 年 1 月 28 日（月）
- 2 募集方法；基本構想（素案）の概要をとりまとめたパンフレットを作成し、各区役所・支所、図書館等に配置するとともに、広報なごや 1 月号、市ホームページ等による案内などを通じて意見を募集しました。

意見提出結果

提出状況；提出者数： 93 名
意見総数：206 件



【享元絵巻】名古屋城総合事務所蔵

発 行 名古屋城総合事務所

〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号

電話番号 (052) 231-1700

市民経済局文化観光部観光推進室

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話番号 (052) 972-2425

平成 25 年 4 月

この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

